推薦本コーナー

小学校卒業生へのはなむけにこんな本を選びました

～『はらぺこニュース　ご卒業おめでとう号』より～

よみきかせサークル「はらぺこあおむし」　後藤　雅子

こんにちは！私たち「はらぺこあおむし」は、向日市立第５向陽小学校の保護者（ＯＢを含む）による、よみきかせサークルです。２０１３年に活動２０年目を迎えることができました。

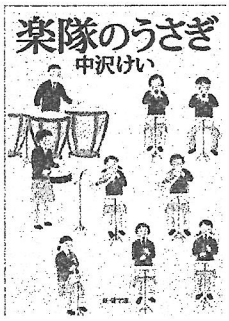
私たちは月に１度、１・２年生と特別支援学級の児童にお話会を実施する事を主な活動にしていますが、例年３学期には、卒業する６年生にむけて、『はらぺこニュース　卒業おめでとう号』というプリントを配布しています。これは、サークルのメンバー各々が、この時期の６年生にエールをこめて、おすすめ本を簡単に紹介するものです。

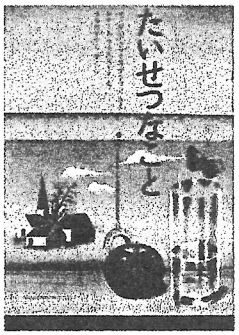
～２６年３月号より抜粋～

「楽隊のうさぎ」

中沢けい 著（新潮文庫）

中学に入学し、なんとなく入部した吹奏楽部。先輩、友人、先生とともに全国大会をめざす毎日が始まります。戸惑いながらも音楽の面白さに夢中になっていきます。音楽に興味がある人、一度手にとってみては・・。





「たいせつなこと」

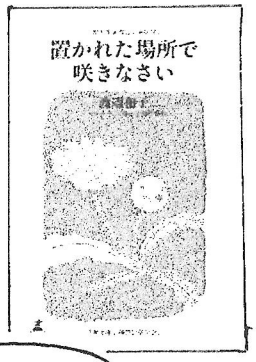
作　マーガレット・ワイズ・ブラウン
絵　レナード・ワイズガード
訳　うちだややこ　（フレーベル館刊）

本当の『たいせつなこと』は…と語りかけてくれる絵本です。
肩の力を抜いて『私は私』と考えてみませんか。

「置かれた場所で咲きなさい」

渡辺和子　著（幻冬舎）

毎日の生活の中で、悩んだ時、納得できない時、素直な気持ちで読んでみて下さい。人は、どんな境遇でも、自分の心次第で輝けるのです。



ポピュラーな本が多くなりましたが…門出を迎えた子どもたちに限らず、皆様にも手に取って頂けたら幸いです❀

子どもたちの喜びとなる絵本をもとめて・・・

ブックトークと本棚の会　太田美穂

ブックトークを聞く側から演じる立場になってずいぶんたちますが、子どもたちの喜び・心の糧となる絵本や読み物をさぐるのが容易ではないことをつくづく感じます。そして、紹介したいのに現在手に入りにくい本が多いというのも苦しいところ。仲間とともに「故きを温ね」新しい本をさぐってきた中からご紹介するものは、偶然にも動物園でくらす動物たちの絵本が多くなりました。

『サムはぜったいわすれません』

イヴ・ライス作・絵　　横山真佐子訳　ブックグローブ社

サムは動物園の飼育員。3 時になると餌の時間、たくさんの動物がいますが忘れたことなど一度もありません。いつものように、ワゴンにおいしいものをいっぱいつんで、キリン、さる、あざらし・・・と回っていきます。しまうまのところでワゴンはすっかりからっぽ・・・でも、まだ何ももらっていない動物がいました。さて・・・新版では訳が変わり、題名の「ぜったい」が「けっして」となっています。えさを待つ動物の身、お母さんがこちらを向いてくれるのを待つ子どもの身になると、この「ぜったい」という言葉はとてもたのもしく感じられます。

子どもにとって一番たのもしい存在は、なんといってもおかあさん。

『ぼくはこどものぞうです』

タナ・ホーバン写真　ミエラ・フォード文　ごみ・たろう訳　リブロポート

写真絵本。動物園に暮らす子ぞうの冒険心が垣間見えます。少し怖い思いをしながらも危機を脱し一安心、急いで帰るのはおかあさんがいるところ。『ちいさなねこ』の最後の場面にも通じます。冒険は、成長の糧。子どもにとっては、何もかもが初めてのこと。何気ない日常に冒険の種があることを気づかせてくれます。

たのもしい存在といえば、ともだち、おくさんも。

『ごきげんなライオン　おくさんにんきものになる』

ルイーズ・ファティオ文　ロジャー・デュボアザン絵　今江祥智&遠藤育枝訳　ＢＬ出版

『ごきげんならいおん』のシリーズ。新訳が昨年出版され手に入りやすくなりました。人気者のライオンが骨折し入院しているので、ライオンのおりにはお客さんが来なくなってしまいます。わたしが頑張らなくては！とおくさん。仲間の智恵を借りて策を講じ、はたして人気者に。すっかり治ったライオンが動物園のおりにもどると見たこともないライオンが・・・

動物が主役のユーモラスな昔話といえば・・・

『ダチョウのくびは　なぜながい？』

ヴァーナ・アーダマ文　マーシャ・ブラウン絵　松岡享子訳　冨山房

ダチョウの首が長くなったのはね・・・という由来話。表紙からもしかしたらと想像できる楽しいおはなし。ヴァーナ・アーダマさんがおはなしの語り手から聞いたということですが、その語り手もケニアを旅行中にある人から聞いたのだそうです。その人のおばあさんが何度も話してくれたというもの。おはなしにぴったりの手法を試みるマーシャ・ブラウンの絵がユーモラスな内容を増幅させてくれます。ちなみに、アフリカのカンバの人によると、ケニアというのは「ダチョウのいるところ」という意味とのこと。気のいいダチョウに親しみを感じます。

☆ミロコ　マチコさん、ツペラ ツペラさん　の絵本から

西谷典子

『ぼくのふとんは うみでできている』

作：ミロコ マチコ　　あかね書房 2013/7/5

今日はねこのシロと一緒に寝る。「ぼくのふとんは深くて広い海」…。　ある日は「ぼくのふとんは ねこでできている」目が覚めると…。「ぼくのふとんは パンでできている」大きなぞうさんがぼくのふとんを食べちゃって…。子どもの独特な空想の世界。大胆なタッチで表現していくミロコさんの絵がとても魅力的です。

『オオカミがとぶひ 』

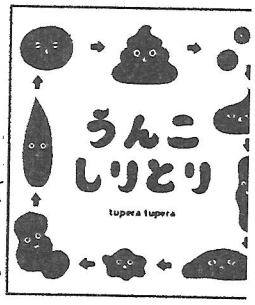
作：ミロコ　マチコ　　イースト・プレス　2012/8/12

ぼくの周りにいろんな動物がガンガン出てきて、不思議に展開するページ。やはりダイナミックな絵に引きつけられます。

『パンダ銭湯』

作：　ツペラ ツペラ（tupera tupera）　絵本館　2013/8

パンダ専門の銭湯があります。そこでは…、びっくり、パンダの秘密が！　ええっ、脱ぐの？　　「チャッ！　チャッ！」とサングラスをとったときのニヒルな表情なんて、もうカッコイイくらい面白いです。親子でゆったりお湯につかってほっこりしました。



『うんこしりとり』

作：　ツペラ ツペラ（tupera tupera）白泉社 2013/10/23

「こいぬのうんこ→　こうしのうんこ→」と続きますが、これってしりとり？　絵がスキッと上品、綺麗な「うんこ」絵本だと思います。子どもと一緒に、新作をつなげてエンドレスに遊べます。

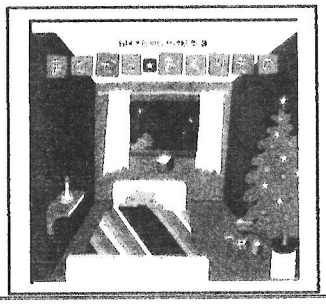
☆子どもに読み聞かせした絵本の中で、思い出に残っている絵本を年齢に応じて紹介します。

御蔵山どんどん文庫　　納橋　志津子

1歳前後“赤ちゃんの遊び絵本シリーズ“で
『いただきますあそび』や『ごあいさつあそび』

登場人物の動物になって声色を変えて表情をつけるなどして、食べたつもりになってやり取りして遊びながら楽しめましたよ。

2，3歳頃には、『まどからのおくりもの』五味太郎作・絵



クリスマスも近くなった頃に読みました。サンタさんが窓を覗くと「かわいい猫が…」そこで猫にあうリボンのプレゼント。でも実は猫の絵のパジャマだったのです。「あれ～？」と言いながら、次のページはどうなるかなと楽しみながら読みました。

3，4歳頃　　『はじめてのおつかい』
筒井頼子作　林明子絵

テレビでも毎年放送される“初めてのおつかい”。初めての経験には小さなドラマがいっぱい。ドキドキ感あり、転んでも気持ちを建て直し、勇気を出して前へ進むところなど「みいちゃんの気持ちになって読みました。

そして、はじめてのおつかいのチャレンジをさせてみました。スーパーでなく近所の対面で買い物ができるお店で。

4，5歳頃　『さっちゃんのまほうのて』
先天性四肢障害児父母の会作　たばたせいいち絵

生まれながら手に障害のあるさっちゃんがままごとでお母さん役になりたいと言うと障害を理由に断られ、友達とけんか。自分の障害を見つめ悩みながらも、大人の励ましや友達の誘いを受け新たに歩みだしていくお話です。「父母の会」のお母さんたちが子育を通してのエピソードをちりばめ、絵本にされたものです。

子どもに一度だけ読みました。

読み終えると珍しく涙を流していたことが印象に残っています。

秋から冬に向かう季節。あたたかいベッドや布団はとても気持ちいいですね。おやすみの前に、こんな絵本を読むのも楽しいのでは？朝起きるのがつらいのは変わらないと思いますが…

（其枝なかよし文庫　八田孝子）

「おふとん　かけたら」

かがくい ひろし/さく

ブロンズ新社　2009年

同じようにおふとんに入っても、動物やモノ？によって違う結果になって…やっぱりにんげんが一番、おふとんの幸せを感じられるのかな。

「そらまめくんのベッド」

なかや みわ/さく

福音館書店　こどものとも傑作集　1999年

いつみてもそらまめくんのベッドは気持ちよさそう。しかも、やっと帰ってきたベッドで、月の光を浴びながらみんなと一緒に寝るなんて。朝はにこにこ起きられそう。

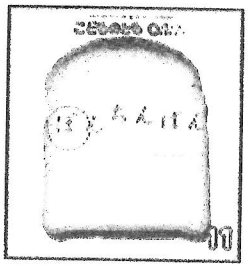
「たのしいふゆごもり」

片山令子/作　片山 健/絵

福音館書店　1991年

自分のベッドがあるんだけれど、寝るのはまだまだお母さんと一緒。そんなこぐまはきっとたくさんいますね。お守りがわりにぬいぐるみがあれば、みんなへいきかな？冬ごもりの支度が、とても楽しそうです。

木枯らしの吹く師走、窓をのぞけば、クリスマスに忘年会、言うてるまに新年会。みんなでいっしょに「わっ」と笑いたい季節になりました。おはなし会で、ばかうけした絵本ばかりを紹介します。　どうぞ、使ってください。　　村上郁　（風の子文庫）



『ぽんちんぱん』　柿木原政広　福音館書店刊　0,1,2 えほん　2014/4/5
（こどものとも 0,1,2　2010/11/01）

ま～あ、やわらかそうな食パン。きっと焼きたて。「ぱんぱん　しょくぱん　ぽんちんぱん」と、リズムに乗ってページをめくると、食パンがにっこり笑顔でこちらを見ています。「ぱんぱん　あんぱん　ぽんちんぱん」……次々現れるおいしそうなパンの写真にため息とよだれが出ます。きっと子供たちはうちに帰ってパンで笑顔を作るでしょう。「メロンパン」の手遊びとご一緒にどうぞ。

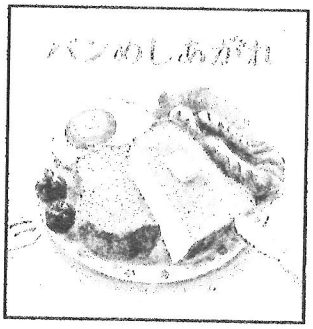
『おおかみだあ！』セドリック・ラマディエ文、ヴァンサン・ブルジョ絵、谷川俊太郎訳　ポプラ社刊　ポプラせかいの絵本　2014/03

もうひとつ、ページをめくるのが楽しい、いいえ、恐い絵本。恐ろしい狼が、ページをめくるたびに近づいてくるのです。「はやく！本を右に傾けるんだ！」すると狼は転びそうになります。とうとう崖から落ちた、と思ったら木にぶら下がってしまった。「はやく！本を振るんだ！」それでもしぶとい狼に、本を逆さまにしたり、なんとか逃げようとするんだけど、どんどん近づいてくる。さて、最後はどうやってオオカミから逃げたでしょうか？

『バナナじけん』　高畠邦生　ＢＬ出版刊　2012/12/25

これもページをめくるのが待ち遠しい絵本。荷車からバナナが一本落ちました。そこへ猿がやって来ました。「どうするとおもう？」　子どもたちの「食べる～！」の歓声とともにページをめくると、そう、ぱくっ、皮をぽい！そこへうさぎが走ってきて、「どうなるとおもう？」　子どもたち、「すべる～！」そう、どったん、ばったん……、大笑いです。　後からワニがやってきて、「どうするとおもう？」……。

最後の場面でなんだか心があったかくなりました。



『パンめしあがれ』　高原美和　視覚デザイン研究所刊　2013/08

く～っ！　おいしそう～！　これは見開き１ページで完結、完食。写真よりもリアルな絵に思わず細部まで見とれてしまいます。これは読むより子どもたちとのおしゃべりタイムにいいかも。

同じシリーズの**『めしあがれ』**2012/10 はあま～いお菓子。

最新刊は**『おべんとうめしあがれ』**2014/04。ああ幸せ。

◎トラやオオカミは、おそろしくってワルイやつ、ばかりではありません。
こんなのもいるよ、というご紹介。　　吉本ふかみ　(京田辺市立図書館)

『トラのじゅうたんになりたかったトラ』

ジェラルド・ローズ　文・絵　ふしみ　みさを　訳　岩波書店　2011年10月

えものがとれなくてすっかりやせこけてしまったトラは、ごちそうがなら王さまのきゅうでんのひろまを、こっそりのぞきこんではうらやましく思っていました。ある日、めしつかいがほしていたトラのじゅうたんを見て、じゅうたんになりすますことをひらめきます。

さあ、トラはうまくじゅうたんになりきれるでしょうか？

ごちそうを食べてホクホク、ブラシでゴシゴシ洗われてトホホなトラの表情が、とてもユーモラス。色も鮮やかで、明るく楽しい絵本です。

『3びきのかわいいオオカミ』

ユージーン・トリビサス　文　ヘレン・オクセンバリー　絵　こだま　ともこ　訳
富山房 1994年5月

こぶたのまちがいではありません。3びきのオオカミが主人公。オオカミたちのうちにやってくるのは、わるいおおブタです。　れんがのうちも、コンクリートのうちも、これいじょうないくらいがんじょうなてっせいのうちもでさえも、おおブタはこわしてしまいます。　このさき、どうしたらいいんだろう？　考えたオオカミたちがたてたのは、これまでとはまったくちがう、うちでした。そうすると……。　ほっこりなごむハッピーエンドがやってきます。

『おおかみのおいしゃさん』

オルガ・ユカイユ　文・絵　こだま　しおり　訳　岩波書店　2009年4月

こうさぎのぐあいがよくないので、おかあさんうさぎはおいしゃさんにつれていきました。ところが、鳥のおいしゃさんは空をとべといい、魚のおいしゃさんは水にもぐれというぐあいで、どれもうさぎにはぴったりしません。とほうにくれるおかあさんうさぎに、ふくろうがおおかみのおいしゃさんをすすめます。そして出た診断は、「にんじんケーキのたべすぎ」！おかあさんうさぎは、カモミールのお薬をもらってやっと安心します。表紙のおおかみのするどい目と赤い舌にドキッとしますが、読み終えて見直すと、なんだか頼りがいのある表情に見えてきます。

『ねむれないひつじのよる』

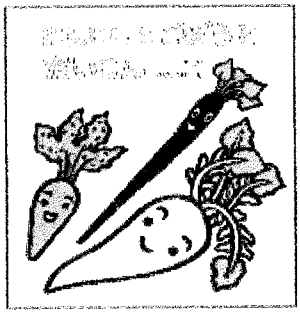
きたやま　さとし　絵・文　祐学社 1989年6月(小峰書店 2003/05版もあり)

今年の干支、ひつじの本も一冊。　ねむれなくてよるのさんぽにでかけたひつじのウーリィ。途中で出会うのは、1ぴきのちょう、2ひきのてんとうむし、3わのふくろう。それからそれから……。　1から順番に、さまざまなモノをゆびさしながらかぞえていくのが楽しい、かずの絵本です。

野菜の絵本

冬が終わると、そろそろ畑では野菜の種まきが始まります。みんなで野菜を育ててみませんか。
野菜畑では何かいいことがあるかもしれないですね。　　池村奈津子（個人会員）

『エディのやさいばたけ』
サラ・ガーランド作絵　まきふみえ訳　福音館（2010）
ママの畑作りを見ていたエディは、自分の畑が欲しくなりました。種をまいて水をやり、一生懸命に世話をしました。さあ、どんな野菜が出来るのでしょう。読んだら作ってみたくなりますよ。



『にんじんとごぼうとだいこん』
和歌山静子　鈴木出版（1991）
なぜ、人参は赤くて、ごぼうは黒くて、大根は白いの？
お風呂に入る、野菜たち。何となく想像できるお話だけど、
お風呂に入ってお話しするのもいいですね。

『あっちゃんのはたけ』
大西ひろみ　ひさかたチャイルド(2005)
あっちゃんは野菜が嫌い。おばあちゃんはあっちゃんを畑へ連れ出します。お手伝いなんかしないと言いながら、少しずつ。手を出していきます。とうとう、あっちゃんが手伝った野菜が出来た時、あっちゃんはどうするのでしょうか。

『ちいさなたいこ』　**松岡享子作　秋野不矩絵　福音館(2011)**
畑の大きなかぼちゃからお囃子が聞こえてきます。中をのぞいたおじいさんとおばあさんはびっくり。かぼちゃの中は賑やかです。さあ、このかぼちゃどうなるのかな？

『やさいのおなか』　**きうちかつ　福音館(1997)**
「これなんだ？」白黒のページから何が想像できるかな。意外と難しい野菜のおなか。お台所でいろいろな野菜を切りながら、「これなんだ？」をやってみてください。

桜の本

お雛様の段飾りに華を添えてくれる「左近の桜」。３月になると、桜もようやく蕾がふくらみはじめます。そのようすを「笑いかけ」というそうです。楽しみな季節がやってきました。　　笠川栄子（個人会員）

『さくら』　かがくのとも絵本（かがくのとも　４月号）

長谷川摂子／文　矢間芳子／絵・構成　福音館　2005

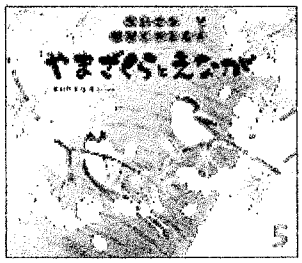
「わたし」はソメイヨシノ。桜のなかまでいちばん身近に見てもらえる樹です。

一足先に満開の花や、葉っぱのようす、そして、春、夏、秋、冬を過ごす「わたし」の移り変わりを見てください。

花だけでなく、樹の幹や梢にも眼を向けると、小さな生きものに出会えるかも。

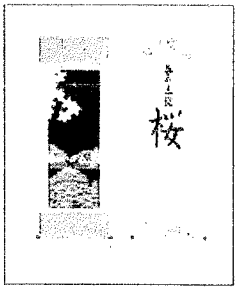
『やまざくらとえなが』　ちいさなかがくのとも　５月号

おおたぐろまり　福音館　2011



巣作りして子育てをするエナガのつがいとそれを見守るヤマザクラの物語。

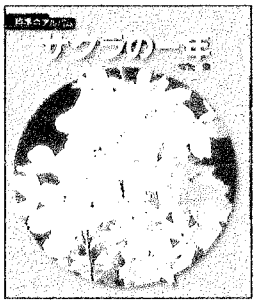
ムクドリ、ヒヨドリ、ウソ、メジロ・・。桜の樹にはいろんな鳥が訪れて、花の蜜を吸ったり、花びらを啄ばんだりします。満開の頃、そのようすを観察するのも楽しいものです。この春、近所の公園や京都御苑などに出かけて試してみませんか。



『春の主役　桜』　絵本〈気になる日本の木〉シリーズ

ゆのきようこ/文　早川司寿乃／絵　理論社　2006

木の枝にとまった犬、天狗のお面をつけた童児など、浮世離れした登場人物が日本の桜を案内してくれます。遊び心いっぱいのこの絵本を読み終えたら、きっと春の風に誘われてお出かけしたくなるでしょう。



『サクラの一年』　科学のアルバム　　守矢登／著　あかね書房　1975

このシリーズは、何と言っても見ごたえのあるクロースアップの写真と巻末の詳しい解説が特徴。蕾や花を切って中身を見ることなどはなかなかできないですが、この本でなら確かめられます。植物を観察するときの手引き書としても使える一冊です。

『桜守のはなし』　佐野藤右衛門／作　講談社　2012

「桜は、夏は暑く、冬は寒くないとあかん。」円山公園の「藤右衛門桜」は言うまでもなく、桜を求めて全国を行脚してきた桜守の語りは、柔らかくも凛としていて、すがすがしい。

藤右衛門氏については、携帯に便利な『日本の桜』（生きもの出会い図鑑／学研）のコラムでも紹介されています。